

平成25年第1回

幸手市教育委員会定例会会議録

召集期日	平成25年1月8日(火)午前10時00分					
開会場所	市役所第2庁舎2階 第2会議室					
開会の日時・宣告者	平成25年1月8日(火)午前10時00分				梨本松男	
閉会の日時・宣告者	平成25年1月8日(火)午前11時50分				梨本松男	
委員出席状況	職名	氏名	摘要	職名	氏名	摘要
	委員長	梨本松男	出席	教育委員	赤川昌行	出席
	職務代理	石井澄江	出席	教育長	戸田幸男	出席
	教育委員	巻島幸男	出席	書記:大竹孝典・森藤真紀		
議事参与者	職名	氏名		職名	氏名	
	教育次長	成田博				
	総務課長	木村卓朗				
	学校教育課長	村田和夫				
	生涯学習課長	金子光夫				
	市民スポーツ課長	鈴木栄				

会議事件名	顛末
<p>開 会 午前 10 時 00 分</p> <p>日程第 1 前回会議録承認</p> <p>日程第 2 議 案 専決報告第 1 号 教育長の専決処理に 対する報告について</p> <p>日程第 3 行政報告 1 教育長報告</p>	<p>委員長 開会を宣する。</p> <p>委員長 前回会議録の内容について質問を求める。 ≪質疑≫ 質疑なし。 ≪承認≫ 全員異議なく承認。</p> <p>学校教育課長 臨時的な県費負担教職員の内申について説明する。 ≪質疑≫ 質疑なし。 ≪採決≫ 全員賛成により原案どおり承認。</p> <p>教育長 教育長報告資料等により説明する。 1 教育長の年頭あいさつの内容について 2 平成 25 年度埼玉県及び全国学力・学習状況調査等の実施とこれまでの経緯及び結果の取り扱いについて ≪質疑≫</p> <p>委員長 平成 25 年度「全国学力・学習状況調査」は、調査対象学年全員が対象か。</p> <p>教育長 そのとおりである。</p> <p>職務代理 「全国学力・学習状況調査」については、平成 22 年度から参加しており、全国や県の結果と比較し、検証することで、指導の改善に活かすことができたとの説明があったが、これは学力の向上がみられたと理解してよいか。</p> <p>教育長 抽出校は返却されたデータ、任意参加校は自校採点での結果を全国や都道府県別のデータと比較し、各学校で検証を行うことで出た課題を指導の改善に活かしている。</p> <p>巻島委員 なし。</p>

<p>2 事務局からの 主要な報告</p>	<p>赤川委員 「全国学力・学習状況調査」について、教育委員会は学力向上に向けて、学校をサポートする努力を続けてきたとの説明があったが、具体的なサポート内容とその蓄積があるのかを伺う。</p>
	<p>教育長 学校の研究委嘱等に関する指導支援、各学校の授業研究会や県の教育委員会、東部教育事務所と合同の教育支援訪問を適宜実施し、支援している。また、各年次の教職員研修については、学校教育課の指導主事をきめ細かく派遣し、時には外部の指導講師も入れながら指導力向上のためのサポートをしてきており、その支援の蓄積はあると考えている。</p>
	<p>赤川委員 支援訪問の要請は、学校から積極的にあるのか。</p>
	<p>学校教育課長 今年度についても、多くの学校から計画的なもの以外で指導支援要請があり、学校教育課の指導主事はもちろんのこと、私自身も出向いて指導等を行っている。</p>
	<p>赤川委員 「埼玉県小・中学校学習状況調査」、及び「教育に関する3つの達成目標」に係る学力調査・アンケート調査は、毎年実施しているのか。</p>
	<p>教育長 そのとおりである。</p>
	<p>赤川委員 実施したことによる蓄積はあるのか。</p>
	<p>教育長 結果はもちろんのこと、指導の改善や支援についても蓄積されたものがある。</p>
	<p>学校教育課長（項目4については、総務課長・生涯学習課長を含む） 資料により報告する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 平成24年度幸手市児童生徒の新体力テストの結果について 2 平成25年度小・中学校児童生徒見込み数について 3 1月中旬から2月中旬の主な行事予定 4 「こども議会」での質問および答弁内容について 《2月5日（火）開催予定》

5 吉田幼稚園の行事予定等

生涯学習課長

- 1 1月の主な行事予定
- 2 図書館の12月利用状況と1月の事業予定
- 3 公民館の12月・1月の主な行事予定、および12月の利用状況

について、資料により報告する。

市民スポーツ課長

各施設の利用状況について、資料により報告する。

《質疑》

職務代理

平成24年度幸手市児童生徒の新体力テストの調査項目について、小中学校合計144項目中118項目（81.9%）が、県平均と同等、もしくは上回ったとあるが、その内訳を伺う。

学校教育課長

小学校48項目、中学校24項目の計72項目の男女合計で144項目となり、そのうち県平均と同等、もしくは上回ったものをすべて含めて81.9%となる。

職務代理

中学校について若干の上昇が見られたとの説明があったが、どの程度上昇したのか。

学校教育課長

中学校男子については昨年度、県平均を上回る項目がなかったが、今年度は2項目あった。また、下回るものが昨年度は11項目あったが、今年度は9項目ということで2項目の減となった。

中学校女子についても昨年度、県平均を上回るものがなかったが、今年度は3項目あった。また、下回るものが昨年度は18項目あったが、今年度は13項目ということで5項目の減となっており、僅かながら成果が出ている。

職務代理

小学校から中学校へ移行する間に結果が悪くなる要因は、どのように考えているか。

学校教育課長

中学校は学力と同様で、ひとつのことに取り組む姿勢や意識に課題があると考えている。特に学年が上がるにつれて結果が悪くなっており、ここから真剣さや学習意欲の低下が伺え

ることから、意欲付けや自信を持たせるための指導を、体育教師だけでなく学校全体で、日々努力を重ねているところである。

職務代理

こども議会で、東公民館への遊具の設置に関する質問に対し、生涯学習課長から遊具の設置は考えていないと答弁するとの話があったが、子どもたちがどういった遊具を求めているかといった橋渡しの役目をするのも教育委員会の仕事と考える。すべて業者に委託しているので、遊具の設置についても業者に一任というのはどうかと考える。

生涯学習課

現在、業者への委託は、公民館の管理のみであり、遊具の管理など他の部分についての委託はしていない。また、管理人は一人しかいないことから、安全面を考慮して、遊具の設置は難しいということである。

委員長

子どもたちは、公民館を利用しているのか。

生涯学習課長

東公民館には図書コーナーがあることから、図書の貸出等で利用がある。

委員長

需要の有無も含めて検討してはどうか。

教育次長

先ほど生涯学習課長から説明したとおり、東公民館には図書コーナーがあることから、特に夏休みや春休みなどについては、子どもたちがここを拠点に遊んでおり、利用者は多数いる。

遊具の問題については数年前に、全国的に遊具の使用による事故が多発した時期があり、幸手市においても児童公園の遊具を撤去したことがあった。それは管理者がいないところで、子どもたちが遊具の誤った使い方をすることで怪我をすることを防止するために撤去したものである。

東公民館については、公民館の管理についてのみ委託しており、遊具の設置は教育委員会が判断するものであるが、遊具の管理上の問題から設置しないほうがいいのではないかと私どもは考えている。

職務代理

管理上、危険を伴わない遊具もあるのではないか。

教育次長

滑り台や鉄棒といったものであれば、怪我をする確率は少ないと思うが、子どもたちは遊びの天才なので、我々が想定できないような遊び方をして怪我をする可能性はある。

職務代理

大きな滑り台とかではなく、コロコロ転がす大きな積木といったような、室内で遊べる物も遊具の一つと考えて良いのではないか。

教育次長

室内への遊具の設置については、置く場所が問題になると思う。東公民館については、図書コーナーに遊具を置くスペースはあるが、図書コーナーという性質から考えると、遊具を併設してしまうというのは少し問題があると考え。また、他の公民館で設置可能なスペースとしてホールが考えられるが、ホールは使用者が目的に応じて利用する場所なので、遊具を常設して子どもたちが自由に遊ぶといった状態を保つことは難しいと考える。できる範囲の中で要望に応えられるよう検討していきたい。

職務代理

1月19日（土）に北公民館で開催されるPTA連合会主催の講演会の講師の方の経歴を伺う。

巻島委員

構成員1万5千人の暴走族「相州連合」の元総長で、現在は様々な問題を抱える親子のカウンセリングに携わっている。また、神奈川県青少年コーディネーターを務めながら、最近では国会で今の青少年の在り方について意見を述べられた経験もある。

今回の講演会では、子どもを育てるには過干渉と過保護の違い、これを逆転で考えてしまうと親馬鹿になるのか馬鹿親になるのかといったところから、親が変わらなければ子どもは変わらないということをテーマに講演をしていただきたくお呼びした。

(※前市PTA連合会長であったことから説明をいただく。)

職務代理

今回報告いただいた公民館講座の参加人数を伺う。

生涯学習課長

各公民館講座の人数を報告する。

巻島委員

平成24年度幸手市児童生徒の新体力テストの結果を受けて、来年度の体力向上に向けた具体的な方策を検討するとの説明があったが、いつ頃までに検討して、いつ頃から学校へ指導していくのか伺う。

学校教育課長

以前、教育委員会定例会の中でお話をしたことがあるが、年に7回ほど開催している体力向上推進委員会の中で、体力テストの結果を踏まえての指導や、各学校の参考となる取組について、協議や審議を行っている。

そのうち、既に何点かの参考事例を各学校に配布したり、来年度の重点的な取組について体育主任から各学校の職員へ伝えたりしている。

現在、まとめの段階に入っており、今年度中には資料の作成、並びに体育主任からの職員向けの話等も考えている。

赤川委員

平成25年度小・中学校児童生徒見込数の資料を見ると、統合した学校の子どもの数は増えているが、学級数はあまり増えていないと思う。そうした場合、当然教員数も増えないわけで、1クラスあたりの子どもの数が統合前より増えたことで、教職員に戸惑いが出てくると思う。その点について、教育委員会はどのような対応をしてきたのか。

教育長

まず、近々で統廃合をした栄中学校と香日向小学校の背景を説明すると、栄中は当時、全学年合計で90人余の生徒数で、今後も同様の人数を推移することが見込まれており、体育や部活動といった団体活動を行うことが難しい状況であった。中学校としてはあまりにも規模が小さいといった理由から、幸手中学校と統合したほうが良いのではないかとということで、教育審議会で十分な審議を行い、最終的な答申をもとに統合した経緯がある。

香日向小学校についても同様に、高学年では20人を超える児童がいたが、低学年や新たに入学する児童数が、5～7人の見込みだった。そうすると平成24年度から複式学級が発生し、平成26年度には学年全体を3教室でまかなえてしまうことから、義務教育の小学校の環境として好ましくないだろうということで、長倉小学校と統合した経緯がある。

教員数については、校長先生を含めて香日向小学校の教員1

1人が減となり、長倉小学校には香日向小学校と統合したことで若干クラス数が増え、3～4人の先生が増員になったと思う。

しかし、教員は標準法に基づき、1年生は基本的に35人学級、2年生以上は40人学級に対して配当されることから、元いた香日向小学校の教員11人と単純に比較できないと思う。

香日向小学校の子どもたちは、人数が少ないことで活動が制限されてきたこともあるので、統合したことでとても良い集団効果が上がっていると思う。

学校教育課長

教育長の説明を補足させていただくと、先ほど赤川委員から教育委員会としてどうフォローしているのかというご質問があったが、教員については標準法に基づき配当される教員のほかに、児童生徒の実態や人数をもとに加配教員の配当を県に申請している。

例えば、児童数が600人を超えるさくら小学校については、3人の加配をお願いしている。また、長倉小学校では、400人の児童数に対し、2人の加配をお願いしている。

このように、出来るだけ細やかに目が行き届くよう配慮しながら、人事を進めている。

赤川委員

県から法に基づいた教員数は、配当される。統合された学校に対し、市の教育委員会としてどのような支援をしてきたのかを伺いたかった。

教育長

そういう意味で申しますと平成24年度は、長倉小学校が統合して1年目ということで、管理職を誰にするかも含めて人事に特段の配慮をした。

また、香日向小学校の教員を数人、長倉小学校へ異動させることで、子どもたちの心のケアを図るといったことにも特段の意を払った。

さらに、市費で採用している教育支援員についても、平成24年度に2名増の小・中学校合計で14名採用し、各学校に配置した。

先ほど学校教育課長からお話させていただいたとおり、県に対しても統廃合やクラスの状況を踏まえて加配教員の要望を行い、前年度と比較して3人を増員していただいた。内訳と

しては、県費の加配教員が小学校16人、中学校は8人の計24名である。要望活動も教育委員会の努力と見ていただけたらと思う。

赤川委員

教育委員会が努力していることは理解した。

赤川委員

平成24年度幸手市児童生徒の新体力テストの結果について、平成24年度の市町村別平均値と県平均値との比較一覧表を見て、私は前年度の結果が気になったが、市のホームページに前年度のデータも掲載されていたので良かった。

調査結果の中で、『埼玉県の本年度の「体力の課題」は「ボール投げ』とあるが、県が何故ボール投げを課題にしたのか分からなかった。またそれを受けて幸手市でも同様の項目で分析しているが、幸手市もボール投げを課題とする必要があったのか。

それから、この比較表は相対的な比較なので、県平均が悪ければ幸手市が悪くてもマルになる可能性があるということだと思う。調査結果の比較・分析を入念に行い、次年度へ活かしていただきたい。

委員長

要望ということでよろしいか。

赤川委員

はい。それから先ほど良くなった部分についても説明があったが、私の経験上、悪いことの分析はするが良くなった部分の分析は流れる傾向が多かったので、今後も良くなった点についても徹底的に分析していただき、別の項目にも活かせるよう取り組んでいただきたい。

学校教育課長

ボール投げは、全国の結果と比較してのことになるが、ここ数年、埼玉県全体で課題となっていた。県の体育課からも各学校にボール投げについて力を入れて取り組んでほしいとの話があり、各学校では常に意識をして様々な工夫を行っている。このようなことから、その効果についてご説明させていただいた。

中学校については、子どもたちへの意欲付けができれば更に伸びるのではないかと考えている。

赤川委員

子ども議会の質問にあったいじめ問題について、子どもは相

談した人が本気で取り組んでいる姿を見て安心すると思うので、教育委員会としてその取組が目に見えるようにしてほしい。また、大人が率先して行動を起こし、子どもたちに示してほしい。

赤川委員

公民館の利用状況について毎月、前年度と比較したデータの報告があるが、どう活用されているのか。

生涯学習課長

これは利用状況の報告をさせていただくもので、このデータを活用した取組は行っていない。

職務代理

私は今まで、これは単なる報告ではなく今後の色々な活動の参考にするための資料だと思って見てきたし、それに対する意見を述べてきたつもりだった。

教育次長

職務代理のおっしゃるとおりである。この報告は、活動内容や利用状況を分析し、今後の公民館運営の施策に活かすためのデータだと思っている。

職務代理

そのようにとらえて良いか。

教育次長

そのとおりである。

教育長

私もそのとおりだと思う。教育次長から話があったようにこの報告は、様々な公民館活動の利用人数を前年度と比較することで、数を通じて実態を把握するためのデータである。このデータを分析し、プラスの要因があれば更に広め、利用者が減少するなどマイナスの要因がある事業は、その要因を調査し、今後の社会教育の事業設計に反映させていくものである。

学校教育課長

先ほど赤川委員から、いじめ問題への取組を目に見えるようにしてほしいとお話をいただいたが、いじめを絶対に許さない、そしていじめから絶対に守りぬくためには、担任の先生だけでなく、学年や学校全体、場合によっては教育委員会、警察、保護者や地域の人と力をあわせて解決していくということを子どもたちに話すことも必要だと考えている。

また、学校ではさわやか相談員を配置するなど、いろいろな

	<p>相談体制をとっているが、言いだせない子どももいることから、いち早く異変に気付いてあげることが必要だと思う。</p> <p>以前、巻島委員からいじめに対する教育は、子どもたちの発達段階に合わせてすることが大事であり、低学年には「自分がされて嫌なことは人にはしない」と言うほうが理解しやすいとのお話があり、私もこの内容を校長会で伝えた。さらに教職員には、常にアンテナを高くして子どもたちを見ていくように指導しているが、いくらアンテナが高くてもその感度が鈍いといじめの兆候を見逃してしまうことがある。よくいじめ問題で加害者側の子どもは、いじめではなくふざけていた、といった表現を使うことがあるが、子どもだけでなく大人の意識の中にもいじめは悪いが、ふざけや喧嘩ならそれほどでもないという意識がないだろうか。いじめとふざけや喧嘩は、区別できるものではなく重なり合っているものもあり、プロの教師としてしっかりと見極めていく必要があるという話もした。</p> <p>悩んでいる子どもをいち早く救えるよう、教育委員会と学校が同じ意識で取り組んでまいりたい。</p>
<p>日程第4 協議事項 次回定例会の日程 について</p>	<p>委員長</p> <p>各委員の意見を調整した結果、次のとおり決定する。</p> <p>1 第2回教育委員会定例会 日時 平成25年2月12日(火) 午前10時～ 場所 権現堂川小学校 会議室</p> <p>2 第1回教育委員会臨時会 (人事の内申に関するものため非公開とする) 日時 平成25年2月27日(水) 午前9時半～ 場所 市役所第2庁舎2階 教育長室</p>
<p>日程第5 その他</p>	<p>職務代理</p> <p>教育委員会の催し物へ参加する方たちの駐車場確保について、ご配慮をいただきたい。</p> <p>生涯学習課長</p> <p>前回配布した幸手市文化祭展示部門のアンケート集計結果に一部落丁があったため、訂正しご報告させていただく。</p> <p>赤川委員</p> <p>1月号広報紙に平成24年度埼玉県小・中学校学習状況調査</p>

結果の分析の概要と学力向上に向けた具体的な取組についての記事があったが、限られた紙面の中で良くまとまっており良かった。この中でいろいろと問題点が書かれていたが、問題点を改善していくための話し合いは、事務局だけで進めるのか。それとも教育委員会の会議の中でも取り上げるのか。記事の内容について、今までもこんなに悪かったのかという声を聞くことがあるが、載せた以上は質問や意見に対して答えられるような準備をしていかなければならないと考えている。

委員長

私も同意見で、具体的な取組があれば、会議の中で説明する必要があると思う。

巻島委員

記事の概略は、まず学力の調査結果については、小学生ではあまり大差がなく、中学生ではあるポイントで大差がついた、生活の調査結果については、朝食を食べない子どもたち20数パーセントと多いとの結果があり、これに対する学校側の取組として、書く力や話す力、生活習慣点検カードを基にした家庭と連携した指導と書かれていたと思う。

そこでまず、生活習慣点検カードに基づいた、家庭と連携した教育の指導をするにあたり、教育委員会としてどのような形で小・中学校を支援していくのか。また、教育委員会の取組として基礎学習の安定と、学力を活用した地域と家庭が連携した小・中学校の支援とあったが、どういう形で支援していくのか、具体的な方策のあるなしだけでも結構なので、教えていただきたい。

委員長

突然なので、今後の課題ということによい。

学校教育課長

答えられる範囲になるが、まずいじめについては、年間を通して指導していくことになるが、特に意識付けということで12月1日からの人権週間に絡ませて、授業だけではなく学校全体の教育活動を含めて大々的に行っている。

次に生活習慣について、先ほど朝食を食べない子どもの話があったが、「早寝・早起き・朝ごはん」ということで、学校便りやいろいろな機会に保護者への啓発を行っている。これに関しては今、手元に数値がないが、徐々に良くなっている傾向がある。

最後に学力について、先ほど教育長から話があったようにテストをやったらやりっぱなしではなく、必ずどこが課題だったか分析し、それに対してどう指導改善をおこなっていくかといった課題解決プランを各学校で作成している。プランの作成にあたっては、抽象的な表現ではなく、どの職員でもわかるよう具体的な表現で作成するようお願いした。そして各学校から吸い上げたものを、教務主任を中心として互いに情報交換を行い、その中からより良いものを各学校の参考としてもらっている。それから先ほど、基礎学力向上のための取組という話があったが、100マス計算も含めていろいろな取組を行っている。また、今年度は特に、授業の質・量の確保だけでなく、家庭学習の重要性に視点をあて、保護者にも十分な協力を得られるように各学校で工夫した取組を行っているところである。

赤川委員

取組には、校長先生を中心として学校でやるべきことや出来ること、そしてまた学校は、地域や保護者をお願いしなければならないことがあると思う。学校が本気で取り組んでいる様子を示すことで、保護者や地域の協力が得られるだろう。例えば、家庭学習をさせるといっても先生は宿題を出しているのか、宿題をやった子どもを評価するなどコミュニケーションをとっている先生がどのくらいいるのかなど、先生の地道な取組が伝わると、親は理解するし子どもも喜ぶと思う。教育委員会として先生をフォローしながら取り組んでいただきたい。

委員長

教育委員会の委員として、具体的に答えられるものがないと困るし、答えられるべきだと思う。私たちも質問するが、今後も継続的な報告をお願いしたい。

総務課長

- 1 防犯カメラの設置工事について
- 2 年末年始の学校施設の破損状況について

閉 会

午前 11 時 50 分

委員長

閉会を宣す。

<p>他特に重要 と認める事項</p>	<p>なし</p>
	<p>上記会議の顛末を記載し相違ないことを証するため、ここに署名する。</p> <p style="text-align: right;">平成25年 2月12日</p> <p style="text-align: center;">委員 長 梨 本 松 男</p> <p style="text-align: center;">署 名 委 員 石 井 澄 江</p> <p style="text-align: center;">署 名 委 員 卷 島 幸 男</p> <p style="text-align: center;">署 名 委 員 赤 川 昌 行</p> <p style="text-align: center;">署 名 委 員 戸 田 幸 男</p> <p style="text-align: center;">会議録調整職員 大 竹 孝 典</p>